

【ジェフリー先生の指針】

1. 原稿を読むことはスピーチではない。(暗記していないと入賞はできない)
2. 観客に伝わってこそスピーチ。(伝える声の大きさ・テンポ)
3. 不自然な身振りはスピーチを損なう。(スピーチは演劇ではない。)
4. 正確な発音。(lとr、bとv、その他f, th, s, sh, tなど)
5. 明瞭な発音。(顔の筋肉をしっかりと使わないと、子音が明瞭にならない)
6. 英語独特のリズムと抑揚を身につける。

私の争点：【あなたの生徒はそのスピーチを外国人の前ですることができますか？】

英語としての争点。English **ただし、英語環境にいた者はその達成度・努力度を勘案する。**

- ・ 単語の英語の正確な発音。(辞書英語 or 生英語)
- ・ 英語の文章構造を考慮した抑揚(主語、動詞、句、節、後置修飾、副詞用法)
- ・ 適切なテンポ。その緩急。間。
習熟度が高い生徒が帰国子女と間違われる
- ・ 複数の文章間の英語的リズム。
のは、なんとも矛盾という他ありません。
- ・ 全体構成の中での部分部分の表現のバラエティー
- ・ 発信者の身の丈にあった英語(中学生らしい語法・語彙 or 生英語)

テキストとしての争点。Contents

- ・ 発表者にとって切実な問題かどうか。(発信の必然性・妥当性。アピールの必要性)
- ・ スピーチの結論が発信者の感慨・感想に終わっていないか。(エッセイの是非)
- ・ スピーチの結論の社会的な価値が高いか。(結論の妥当性)
- ・ スピーチの結論が凡庸でないか。陳腐化していないか。(空虚な正論)
- ・ スピーチ全体の構成が効果的かどうか。
(随想・散文的ではなく、効果的な構成をとっているか)
- ・ 冗漫ではないか。空虚なレトリック。
- ・ 理知的な考察・冷静な考察かどうか。(感情の吐露としてのスピーチでないこと)
- ・ 中学生にふさわしい/中学生らしい内容(従軍慰安婦は×)

パフォーマンスとしての争点。Delivery

- ・ スピーチは演劇ではない。したがって、落語的な対話表現は許容されるのか。
- ・ スピーチは歌唱ではない。過度な演出がないか。
- ・ スピーチの内容に相応しい感情表現/ジェスチャーがなされているか。
- ・ パフォーマンスの程度は最適か。演技過剰に陥っていないか。

下線項目は、過去の入賞作品を考えた場合に例外もある検討事項。